

第Ⅱ章

多摩市のみどりの現状

Ⅱ－１ 多摩市の特性	10
(1) 位置・地勢	10
(2) 気象	11
(3) 人口	12
(4) 土地利用	13
(5) 市街化の状況	13
(6) 住宅や公共施設の更新時期の到来	13
Ⅱ－２ みどりの現況とその特徴	14
(1) みどりの概況	14
(2) みどりの量	16
(3) 公園緑地の数と面積	18
(4) 市民１人あたりの市立公園面積	18
(5) 天然記念物	20
(6) 街路樹	21
(7) 農地	22
Ⅱ－３ 市民のみどりへの関わり	24
(1) 市民のみどりの豊かさや公園・遊び場に対する評価	24
(2) 市民のみどりの管理に関する意識	25
(3) 市民とともにみどりを守るしくみ	26

多摩市の特性

(1) 位置・地勢

位置：東京都の多摩丘陵のほぼ中央北側、都心から約 30 ～ 35km 圏の東京都西部に位置し、東側は稲城市、北側は日野市と多摩川を挟んで府中市、西側は八王子市、南側は町田市、神奈川県川崎市といった多くの市に接しています。

面積：東西約 7.3km、南北約 5.9km、面積 21.08km²となっています。

地形：多摩市域の地形は、多摩丘陵と台地、沖積低地、多摩川で形成されています。市域内では天王森公園付近が海拔 161.7 m で最も高くなっています。

地質：多摩市域の基盤となっているのは、新第三紀鮮新世末期から第四紀洪積世前期（約 258 万年前～ 78 万年前）にかけて浅海に堆積した上総層群です。また、地層は下位より平山砂層・連光寺互層・稲城砂層などにより構成されています。上総層群を覆って分布している御殿峠礫層の上位は、いわゆる関東ローム層となっており、下位より多摩ローム層、下末吉ローム層、武蔵野ローム層、立川ローム層に区分されます。

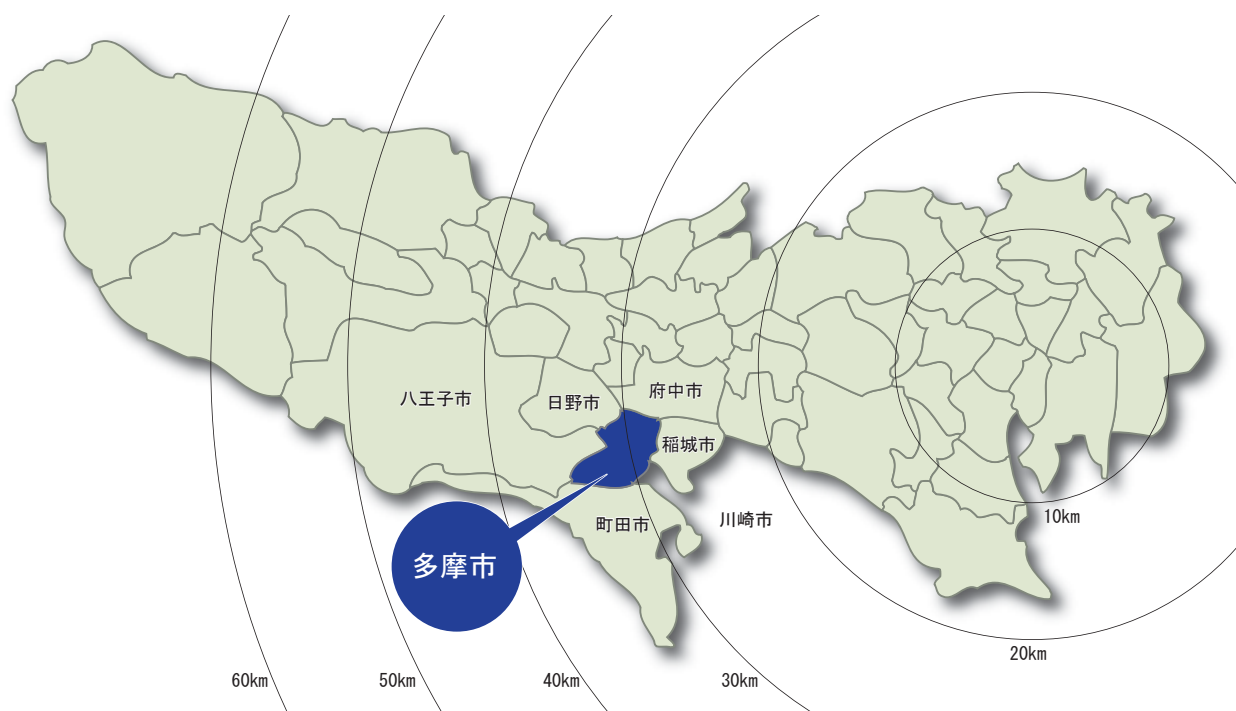


図 2-1 多摩市の位置

(2) 気象

多摩市は日本の気候区分※の中で、東日本型の東海・関東型気候区に位置しています。

気象観測点は多摩市役所にあり、東京都心部（基準地点：千代田区大手町東京管区气象台）からは30kmほど西にあたります。

（※関口武氏による気候区分：日本の気候を区分したもので、よく用いられる。大きくⅠ裏日本型、Ⅱ九州型、Ⅲ南海型、Ⅳ瀬戸内型、Ⅴ東日本型、Ⅵ南日本型に分けられる。）

気温：過去8年間（平成16年～平成23年）の年平均気温は15.5℃で、概ね15～16℃あたりを推移しており、東京都心部と比べると1.2℃ほど低くなっています。

過去8年間の最低気温の平均は-3.8℃で、東京都心部と比べると、3.3℃ほど低くなっています。最高気温の平均は37.9℃で、東京都心部と比べると1.4℃ほど高くなっています。特に平成19年には39.5℃の最高気温を記録しています。

降水量：年間の降水量は1,300mm～1,900mmで推移しており、東京都心部とほぼ同じ量の降水量となっています。

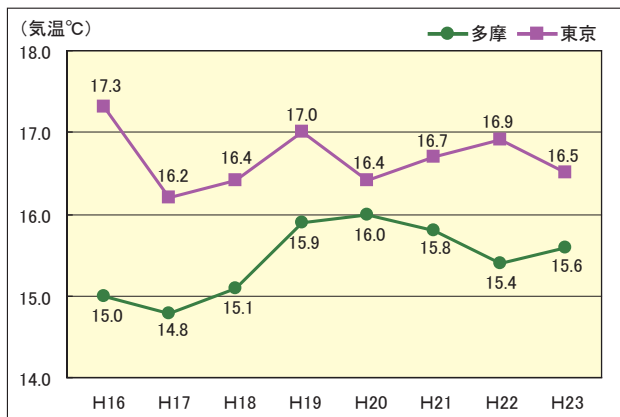


図 2-2 過去 8 年間の多摩市及び東京の平均気温

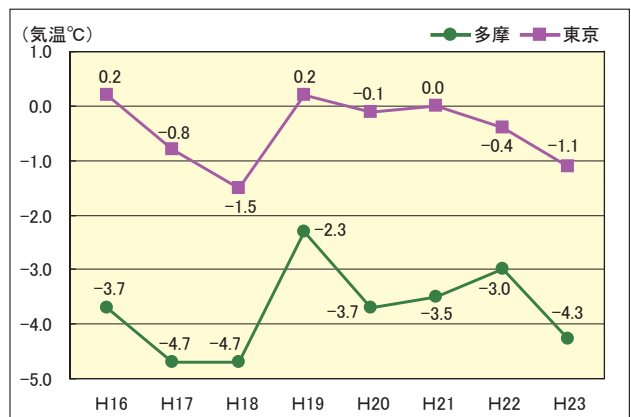


図 2-3 過去 8 年間の多摩市及び東京の最低気温

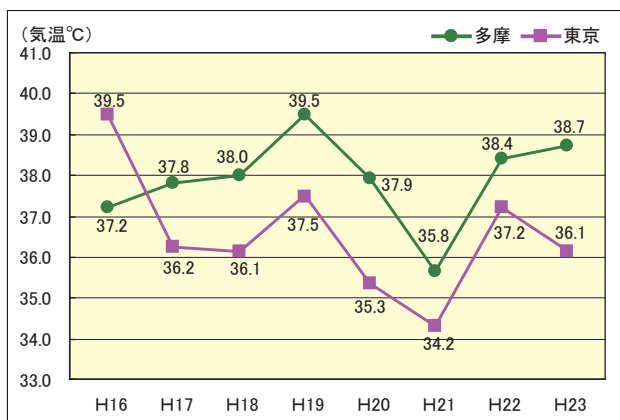


図 2-4 過去 8 年間の多摩市及び東京の最高気温

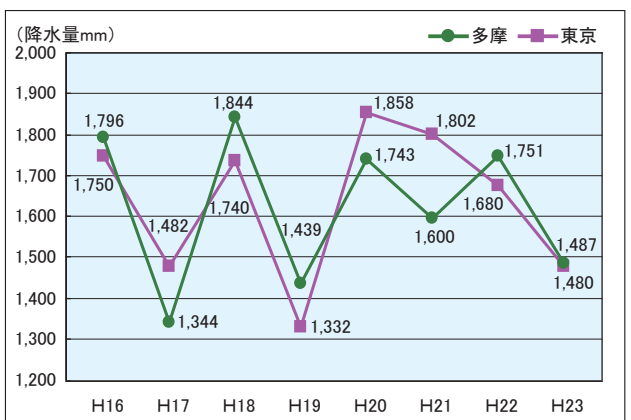


図 2-5 過去 8 年間の多摩市及び東京の降水量

（出典：統計たま - H22（多摩市）、気象庁 HP）

(3) 人口

多摩市の人口は平成 24 年 1 月 1 日時点で 146,524 人です。東京都全体の約 1.1%、東京都の市部人口の約 3.5%となっています。

1) 人口の増減

人口は、多摩ニュータウンの開発に伴い増加しました。特に諏訪・永山地区に第一次入居が開始された昭和 46 年 3 月より急増し、昭和 46 年の人口の 29,587 人から、昭和 56 年には約 3.2 倍の 94,308 人、平成 3 年には約 4.8 倍の 142,733 人となりました。その後、微減微増を経て、現在に至っています。

2) 人口構成

人口構成は平成 24 年 1 月 1 日時点で、14 歳以下が 17,639 人、15～64 歳が 95,250 人、65 歳以上が 31,406 人となっています。

このうち市民全体に対する 14 歳以下の割合は、昭和 56 年に 3 割を超えていたもののその後減少し、平成 19 年以降は 12%前後で推移しています。15～64 歳と 65 歳以上の割合を比較すると、15～64 歳の割合が減少するのに対し、65 歳以上の割合が増加しており、国や東京都と比較して急激な高齢化傾向が伺えます。

また、平成 24 年 1 月 1 日時点の外国人登録人口は 2,229 人で、全体の約 1.5%を占め、平成 22 年の 2,336 人をピークに近年はわずかながら減少傾向となっています。

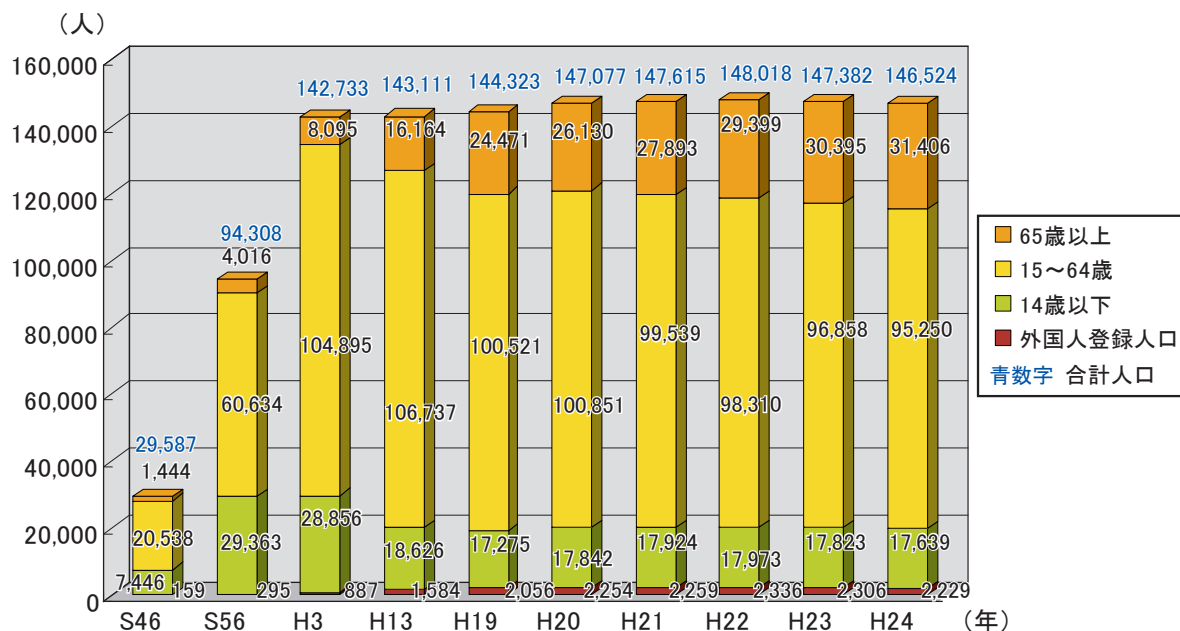


図 2-6 多摩市の人口推移グラフ（出典：東京都の統計 - 各年 1 月 1 日現在（東京都）、平成 22 年度環境報告書 - H22（多摩市））

(4) 土地利用

平成 21 年度の多摩市の土地利用現況調査によると、市域では住宅系、商業系、工業系、公共系を合わせた宅地が 42.1%、道路などが 19.0%、公園などが 13.9%、森林が 6.7%となっています。

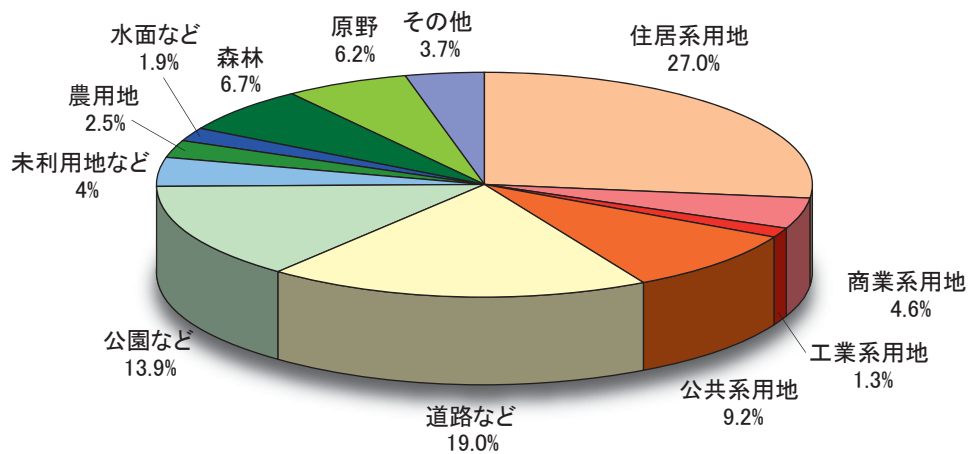


図 2-7 土地利用構成比（出典：土地利用現況調査報告書 - H21（多摩市））

(5) 市街化の状況

多摩市は、多摩ニュータウン事業をきっかけとして計画的に整備された都市基盤の上に、住環境や商業業務環境が整備され、多摩センターや聖蹟桜ヶ丘をはじめとする駅周辺には多くの商業業務施設が建ち並んでいます。多摩都市モノレールの開業や府中四谷橋の開通などにより、交通体系もほぼ完成し、こうした都市整備が進められた結果、成熟した都市環境が形成されています。

また、ニュータウン区域では住民の身近な生活を支える近隣センターの整備とともに、駅前や沿道に商業業務施設が計画的に配置されました。ニュータウン区域外では、聖蹟桜ヶ丘駅を中心に整備が進み、駅南側の再開発事業も完了し、集合住宅と公共施設、商業業務施設が建ち並んでいます。

(6) 住宅や公共施設の更新時期の到来

昭和 40 年代より始まった多摩ニュータウンの事業から 40 年が経ち、老朽化した集合住宅では、建て替えが始まったほか、市内の道路や公園などの公共施設も更新の時期をむかえ、その管理方法や計画的な施設更新が求められています。